

# あまいと 結核

増刊号（2024年12月15日）  
発行：四国手話通訳問題研究会（四通研）

## 四国手話学習会「手話でGO！2024」開催

11月17日（日）、四国手話学習会「手話でGO！2024」が徳島県徳島市で開催されました。今回も対面での開催が実現し、78名の参加がありました。

この増刊号では、「手話でGO！2024」の様子を報告します。

### 【講演】「デフリンピック後の目指す社会のカタチ」

午前、自転車競技日本代表の薬剤師でもある早瀬久美氏による「デフリンピック後の目指す社会のカタチ」と題して講演をしました。特に、薬剤師の立場からの「スポーツファマシスト」の話では、薬の正しい使い方や指導を通じてドーピングから選手を守る役割等の話がありました。「パラドーピング」「機材ドーピング」「障害ドーピング」と聞きなれない話も出ましたが、誤った行為は日本全体にも及ぼすことになるかと話され、正しく理解ができるよう丁寧に説明をしてくださいました。



また、デフリンピックレガシーについては、5つの視点が示されました。その5つとは、「視覚化」「女性アスリート」「多様性」「発展途上国支援」「スポーツ通訳」です。中でも女性アスリートの少なさについては、自転車競技は特に女性が少なく、大会に出て顔ぶれを見ると、自分だけがいて他の顔ぶれが変わっています。結婚、出産、子育て等の支援がなくてやめていく人が多いので、共に育っていくことがないのが残念だと話されました。女子アスリートが輝ける場、サポートが必要である、「自分も引退したいけど～後がないので、頑張る！」と頑張って話されました。他の項目についても、私たちが考えなくてはならない課題をいくつも挙げられていた。

デフリンピックを開催して終わりではなく、その後のレガシーをどう残していけるか、デフリンピックをきっかけに聞こえない人たちが暮らしやすくなる社会のカタチをめざして、100年の記念大会を日本で開催することの意義を、わかりやすい説明で会場のみなを巻き込んでいきました。優しく繰り返される手話表現の中にも強い意思が感じられて、特に印象に残った言葉は、「100年後の未来に爪跡を残す」です。

私たちもできることからやらないといけないと気持ちを新たにさせられました。

### 【第1分科会 「手話で話そう」～みんな、集合！手話で話して楽しもう！～】

分科会の中では、一番参加者が少なかったのですが、一人一人、自己紹介をして全員で手話で話し合えました。指文字の「ひ」を使って、表現能力、思考能力アップトレーニングをしました。たくさん表現を知っているのに、いざ、「ひ」の手話単語を思い出そうとすると出てこなかったり、2人で協力して単語数を増やし、そして「ひ」だけで文章を作成してみました。たくさん他にも指文字例を準備していたのですが、時間の関係で、もう一つ「さ」をしました。

「ひ」の例：明日、インドに 遊びに 行く。

「さ」の例：アンパンマンの 動きを する。

なんてどうでしょうか？頭を使って文章を考えてもらいました。

次は、愛媛の手話の表現はどれ？2択のクイズ形式にして、愛媛の手話を当ててもらいました。

あっていそうな間違いの単語を考えるのは、講師も大変でした！

休憩後、ストレッチをして、楽しいお話しタイム。日ごろどのように活動されているのか？皆さんの当たり前が、そうでなかったり、他の県の方に質問できる絶好のチャンスでした。

担当：青井均（えひめ聴協）、福田八重子（ひめ通研）



## 【第2分科会 手話を創ろう ～手話言語研究所標準手話研究部四国班2024～】

四国班は2012年から活動開始。新たに徳島と愛媛にろう研究員が加わり現在は5名で年間200以上の単語を検討しています。

この分科会では手話単語のつくり方を知ってもらい、単語が確定されるまでの過程を説明し、今回は全員で「減反」「押し」「発展途上」などの単語を検討しました。毎年盛り上がって会場は熱気に包まれました。

- ・担当：竹島晴美、近藤龍治、前田真紀  
(手話研究所 四国班)



## 【第3分科会 手話を学ぼう】

2025デフリンピックを《手話》で盛り上げよう!!をテーマに、日常使う挨拶を国際手話で表現、また東京デフリンピックの競技種目の手話表現を参加者と一緒に表現しました。

後半では100年記念大会の歴史を振り返るにあたって、ろうあ運動の歴史や社会制度の動きも確認することで、デフスポーツもろうあ運動とともにあることを、改めて知ることができたと思います。

クイズでは、デフリンピック応援隊として、四国から加入したメンバーが、徳島県の「すだちくん」と、高知県の「くろしおくん」であることを知って、参加者はデフリンピックがより身近に感じられたようでした。

担当：藤澤忠浩（香聴協）、佐治佐江（香通研）



## 【第4分科会 手話で学ぼう】

「防災」のテーマで学び合いました。

- ①防災クイズ
- ②仙台被災地視察
- ③高知の防災活動
- ④グループワーク（家で気をつけている事・避難所で困る事・望む事・取り組んでいる事）
- ⑤発表。災害から生きのびる為に事前に自分自身が準備、近所付き合い、行政への働きかけ「自助・共助・減災」が大切です。四国の仲間が集い思っている事を自由に出し合う事で新たに気づき知識を高める事ができました。今後の活動に繋げて欲しいと思いました。

担当：藤田由紀子（とさ聴協）、中平真弓（とさ通研）



来年度の「手話でGO! 2025」は、デフリンピック開催のため例年より少し早く、2025年11月2日（日）に香川県で開催予定です。

次回も多くの皆様とともに学び合うことができることを楽しみにしております。

## 【2024年度 第14回四国手話講師研修会のお知らせ】

- ・日時 2025年3月9日（日）9:30～16:00
  - ・場所 高知市中央公民館（高知市文化プラザかるぽーと）
  - ・内容 講演及び分科会
- 申込方法等詳細は、四通研各支部へお問い合わせください。